

シンポジウム

2024年7月6日（土）15:20～16:40 （講演・企画会場 5-301 教室）

「初等・中等・高等教育の情報教育接続の深化にむけて」

○概要

学習指導要領の改訂や数理・データサイエンス・AI教育の推進に伴い、初等・中等・高等教育の各学校段階では新たな情報教育にむけた検討や実践が行われています。その中で、各学校段階の取り組み内容にも互いに精通し、トランジションやカリキュラムのアラインメント、教育の支援環境についても検討を重ねていくことが求められています。このシンポジウムでは、初等・中等・高等教育の情報教育のそれぞれに関わる学会の立場から、情報教育に関する知見を共有します。また、初等・中等・高等教育の情報教育の接続を深めるために取り組むべき課題について議論します。

○登壇者

- ・山本 利一 日本産業技術教育学会 会長（埼玉大学 教授）
- ・森本 康彦 日本情報科教育学会 会長（東京学芸大学 教授）
- ・小松川 浩 教育システム情報学会 会長（公立千歳科学技術大学 教授）

○司会

- ・浅羽 修丈（北九州市立大学 教授）

「初等・中等・高等教育の情報教育接続の深化にむけて」

山本利一

日本産業技術教育学会 会長

埼玉大学 教育機構 教員養成支援センター長

埼玉大学 教育学部 教授

「経済財政運営と改革の基本方針 2024 について（骨太方針 2024）」が令和 6 年 6 月 21 日に閣議決定した。この中には、「DXハイスクール事業の継続的な実施等による初等中等教育段階における探究的・文理横断的・実践的な学びの推進や理数系教育の推進、情報教育の強化・充実」が明記された。また、「イノベーション創出に向けた地域や産業界の学び直しニーズを踏まえつつ、産業界・個人・教育機関によるリカレント教育エコシステムの創出に向けた取組を加速する」ことが示された。

次期教育課程は、デジタル人材の育成を目指した教育のDX化、STEAM教育（理・数・工学）の推進、学習の基盤としての情報活用のさらなる重視などが、盛り込まれることになる。本提案は、小学校、中学校の情報教育の課題と確認すると共に、それらに対応する手段についての事例を示す。また、小中高等学校の情報教育の連携の重要性を確認すると共に、発達段階や学校種の特徴に応じた情報教育の在り方を協議する。

「高等学校情報科を中心とするシームレスな情報教育の学びに JAEIS ができること」

森本康彦

日本情報科教育学会 会長

東京学芸大学 ICT/情報基盤センター 教授

「情報科なくして探究なし！」

今や高等学校における情報科は、日本の（いわゆる）情報教育のハブになりました。高等学校の情報科を中心にして、小学校－中学校－高等学校－大学とシームレスにつながる情報教育の大きな学びの“最初の枠組み”は完成したと言っても過言ではないと思っています。

特に、教員が情報Ⅰと情報Ⅱの授業をつくる際に参考となる教材群や、生徒用の（情報Ⅰの）授業の補助教材やテスト対策用問題集などの学習教材は、たくさんの方（企業も含めて）のご尽力によりかなり整備されてきています。文部科学省の「高等学校情報科に関する特設ページ」は手に入らないものはないと思わせるくらい充実しています。

しかし先月、ある高校現場の情報科の先生と話す中で「私はサバイバー教員なので…」という言葉が出てきました。その先生の思いは、「その日その日の授業をやっていくことが精一杯で、授業改善のための良い教材が Web にあることは知っているけれども、私にはレベル？が高くて…」というものでした。この先生のように、なかなか前に踏み出せない、今更こんなこと聞けない、知らないなんて言えない、と感じてしまっている先生方が実はとても多くいるのではないのでしょうか。このような先生方を支えたい。そのために、本学会に何ができるのかについて議論したいと思っています。

「初等・中等・高等教育の情報教育接続の深化にむけて」

小松川浩

教育システム情報学会 会長

公立千歳科学技術大学 理工学部 教授

文部科学省 初等中等教育局 学校 DX 戦略アドバイザー

大学改革支援・学位授与機構 高専・大学機能強化支援事業 事業評価委員

北海道 Society5.0 推進会議委員（人材育成 WG リーダ）

高等教育の教育改革の文脈で、デジタル人材の育成が重要なトピックとなっている。文部科学省が推進する「高専・大学機能強化支援事業」においても、令和5年・6年で、全国の200以上の大学が手を挙げ、グリーンとデジタルを意識した学部改組や大学院の拡充を通じた機能強化が進められようとしている。特に、デジタル人材育成に関する機能強化では、アドミッションポリシーの点で、高校の情報を強く意識した内容が検討されており、今後ますます高校の情報の位置づけは高くなると考えられる。

今年創立50周年を迎える教育システム情報学会は、教育における情報やシステムに関する研究の先導的役割を担っており、高等教育でのデジタル活用ならびにデジタル人材育成という二つの軸に沿って多くの知見を持つ。デジタル活用は、システムを介した支援を学習科学の観点から研究を行うスタンスが中心で、こうした知見は初等中等教育での教育の情報化にも貢献できる。また人材育成は、情報教育やプログラミング教育に関わる実践研究も多く、情報教育部会を中心に、初等中等教育での情報教育の重要性を早くから提言してきた。本フォーラムでは、デジタル人材育成の重要性が増している高等教育の現状を振り返りながら、高等教育で先導するデジタルの活用や人材育成のための教育内容の高度化の観点から、初等中等教育とどのような連携が取れるのかを考えていきたい。